

# 誰もが希望を持って 成長できるように



市は、子どもと子育てを支援するために必要な事業を定めた「岩見沢市子ども・子育てプラン」に基づき、保育事業やさまざまな子育て支援に取り組んできました。

その実績を踏まえ、市民の皆さんの意見を取り入れながら、子どもや保護者を取り巻く状況の変化や児童虐待の防止、子どもの貧困対策に対応した、第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（以下「第2期プラン」）を策定しました。

今月号は、第2期プランの概要を紹介します。

問合せ先 市教委子ども課子育て支援係（4西3）  
あえーる岩見沢4階 ☎35局5133

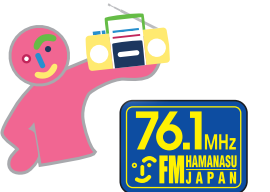
## 基本理念

### 人の絆で紡ぐ 笑顔の輪

子どもが笑顔でいると、さまざまな年代、立場の人が、幸せな気持ちになって笑顔になれます。子どもを真ん中にした笑顔の輪は絆を深め、みんなの幸せを紡いでいきます。その実現のために、6つの基本目標を定めました。

## 基本目標

基本目標1	幼児期の学校教育・保育の充実と地域における子育ての支援
基本目標2	子どもと保護者の健康の確保・増進
基本目標3	子どもの教育とあそび環境の充実
基本目標4	安心して子どもを産み育てることができる環境の整備
基本目標5	児童虐待の防止
基本目標6	子どもの貧困対策とひとり親家庭の自立支援



市職員が出演して  
説明します  
5月8日(金)  
午後5時40分

第2期プランの詳しい内容は、市ホームページからご覧になれます



## 変化するニーズに 対応 安全・安心を守る

### 進行する少子化の中で

令和2年度から6年度までに、0歳から17歳までの児童人口は、約1千人減少の見込みです。

しかし、子どもの数は減っても、子どもたちが幼稚園や保育所で楽しく豊かな体験ができるよう、幼児教育と保育を守っていかねばなりません。

### 乳幼児保育ニーズの高まり

結婚・出産後も夫婦ともに仕事を続ける世帯が増え、0歳から2歳児の保育所利用のニーズが高くなっています。

そこで、0歳から2歳児が利用できる小規模保育所を拡充し、安心して子どもを預けることができる環境を整えます。

### 幼児教育と保育の人材を確保

当面は増加が見込まれる乳幼児の利用に応えた人材の確保と育成が必要です。

そこで、今年度から、幼稚園、保育所などと協力し、人材の確保に取り組むことを通じて、幼児教育と保育の質の向上を目指します。

### 子育ては地域みんなで

子育ては、家庭だけで担うものではなく、友人や知人、地域と関わりながら行うことが重要です。

地域全体で子育てに取り組むためには、私たち一人一人が、子ども・子育てに対する関心や理解を深める必要があります。

市は、子育て家庭の孤立を防ぎ、交流や仲間づくりを行うために、子育て総合支援センターや児童館を活用した地域親子ひろばなどの子育て支援事業を実施しています。

こうした取り組みには、民生委員・児童委員、保健推進員、読み聞かせボランティアなど、地域で活動する皆さんの協力が欠かせません。

第2期プランでは、子育てを地域で支え合える関係づくりをこれまで以上に大切にしていきます。

### 虐待を見逃さない

児童相談所や子育て総合支援センターに寄せられる、児童虐待の相談件数は増加しています。その多くは、保護者間のDV（ドメスティック・バイオレンス）を目標することに由来する心理的虐待です。

児童虐待を未然に防ぎ、子どもか

らの小さなサインを見逃さないため、オレンジリボンキャンペーンの啓発活動、相談窓口の周知を行います。

オレンジリボンキャンペーン  
子ども虐待のない社会の実現を目指す市民運動のこと。  
オレンジリボンは、そのシンボルマークで、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表す。

### 【皆さんへお願い】

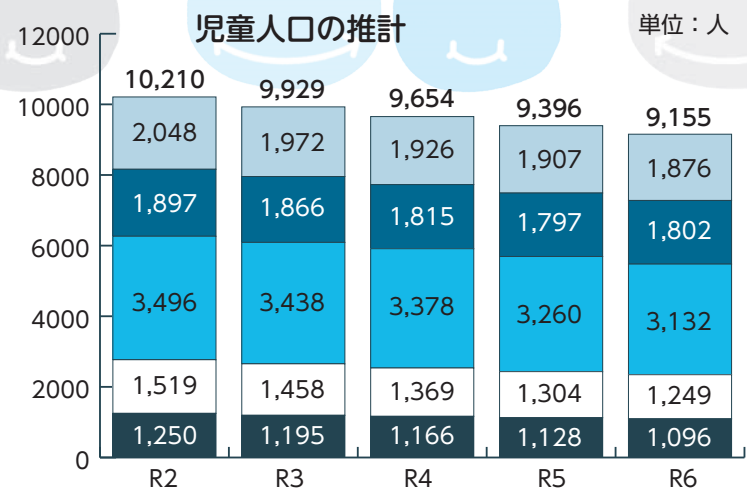
「虐待かな？」と思っても、関係機関に連絡することには、ためらいが生じるものですが、気になることがあったときは、迷わず相談してください。

また、保護者と話す上で大切なのは、「何があったんですか？教えてください」と、事実を中立の立場で聞くことです。

保護者が大変な思いをしていたら、それに共感し、ねぎらいの気持ちを伝えることも虐待の防止につながります。

### 【相談窓口】

子育て総合支援センター（4西3）  
あえーる岩見沢3階  
☎22局3337





幼児期からの子育て支援

幼稚園や保育所、学校で、子どもたちは楽しく過ごしています。その思い出は、生涯を通してかけがえない、心の支えとなります。

そのため市は、幼児期からの教育が大切と考え、幼稚園・保育所の入所枠を確保し、子どもたちがさまざまな体験ができるよう、質の高い教育の提供に取り組みます。

貧困の連鎖を断ち切る

「貧困は連鎖する」と言われています。

それは、家族の収入によって子どもの教育機会に差が生まれるためです。そのことが、将来の学歴の差、就業形態の差に影響していくと考えられています。

子どもがどのような環境にあっても、学校や地域で自分を理解してくれる人に巡り合うことができれば、大人を信頼し、将来に希望を持つことができます。そうした経験とつながりから、自分の将来について考える力を身に付けられるよう、貧困の世代間連鎖を断ち切る取り組みを進めます。

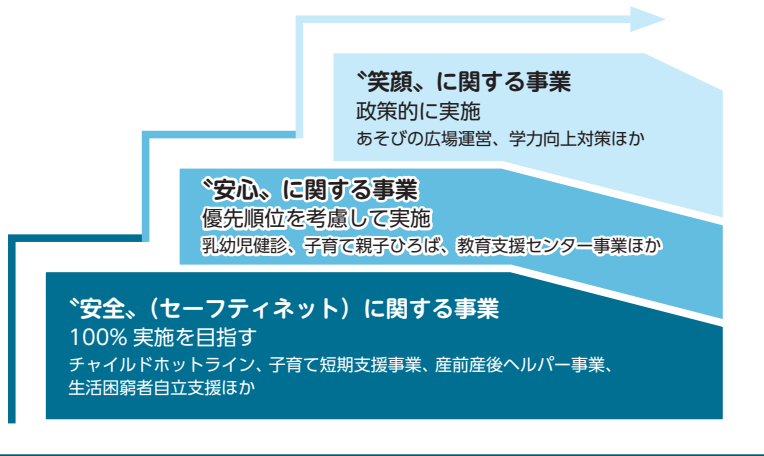
プランの進め方

第2期プランに盛り込んださまざまな事業は「安全」「安心」「笑顔」の3つの視点に分類されています。

プランを進めるに当たっては、子ども・子育て支援の基礎となる「安全」に分類される事業から優先的に取り組みます。

「安心」「笑顔」に分類される事業は、財源の確保などさまざまな観点から、年度ごとに優先順位を判断します。

子ども・子育て支援の3つの視点と優先する事業



今年度取り組む新たな事業

- 保育士などの確保** 各園と協力して、保育士など若手人材の確保に取り組みます
- 放課後児童の早朝預かり** 学校休業日の早朝、放課後児童クラブを利用する児童を地域の協力を得て、児童館などで受け入れます
- 土曜・英検学習会の送迎** 経済的な負担がなく学習会に参加することができるよう、スクールバスを運行します
- 子どもの体験活動の支援** 地域で子どもを対象とする体験活動に取り組む団体などを支援するとともに、担い手の育成を進めます
- 児童虐待防止学習会** 子どもと直接かかわる専門職同士が、児童虐待に対する問題意識を共有するため、学習機会を設けます

市は、第2期プランを通して、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人置き去りにされることなく、将来に希望を持って成長できるように、さまざまな取り組みを進めます。

子どもの体験活動を支援します！

将来を担う子どもたちが、体験活動を通して仲間や地域の人と楽しく幸せな時間を過ごし、豊かな人間性や社会性を身につけ、また、どの家庭も地域の中で孤立することなく、安心して過ごせる機会をつくることを目指し、子どもの体験活動を実施する団体および個人に補助金を交付します。

- 対象事業** 市内において概ね中学校区の地域の子どもたちを対象にする事業で、主に市内で年間を通して実施するもので、子どもたちが気軽に参加できること
- 【例】** 子ども食堂やあそび場などの子どもの居場所づくり
- 対象者** 市内で子育て支援ならびに青少年育成の活動をしているか、予定している団体および個人
- 対象経費** 講師およびボランティアへの謝金、宣伝用ポスターの印刷費、材料費など
- 補助金額** 1事業当たり、10万円を上限
- 申請方法** 6月1日(月)から19日(金)の間に、市教委子ども課で配布または市ホームページからダウンロードした申請書類に必要事項を記載し持参
- 決定方法** 申請書類の内容を審査して選考
- 申請・問合せ先** 市教委子ども課子育て支援係(4西3 であえーる岩見沢4階) ☎ 35局 5133

子育て中のお母さんに  
市の子育て支援の取り組みについて聞いてみました



1歳2カ月の赤ちゃんのお母さん

茂古沼 綾子 さん

(おしゃべりルーム・ひなたっ子を利用)

母親学級で知り合ったお母さんに誘われて、おしゃべりルームに参加しました。その後、子どもが寝返りなどができるようになって、ひなたっ子も利用し始め、おしゃべりルームはほぼ毎回、ひなたっ子は週2・3回利用しています。

おしゃべりルームは、同じ月齢で1人目の子どもという、自分と同じ状況のお母さんたちと交流できるので、リフレッシュできる場所です。

ひなたっ子は、子どもが広い場所でいろいろなおもちゃで遊べることと、他のお子さんを見て歩きだしたこともあったので、たくさん刺激を受けられるので利用しています。

もし、こういった場所がなかったら、散歩する以外、子どもと家に2人きりで孤独だったかもしれません。

おしゃべりルームやひなたっ子は、遊んだり、交流したりするだけではなく、その場で相談できることも良いと思います。離乳食をあまり食べてくなくて、1人で悩んでいた時、相談してみてアドバイスをもらい、ようやく離乳食を食べてくれるようになり



ました。そういう相談ができる人がいることが心強いです。

他のまちに住んでいる人から、こういった場所が無いと聞くこともあるので、私は「岩見沢で子どもを産んで良かった」と思っています。

小学3・4年生のお母さん

古川 織恵 さん

(美園児童館の放課後児童クラブを利用)

うちは夫婦共働きなので、上の子が小学生になった時から放課後児童クラブを利用しています。

学校だと、同じ学年の子どもと遊ぶことが多いのですが、クラブだと違う学年の子どもと接することができます。上級生からクラブ内のルールを教えてもらったり、面倒をみてもらったりするけど、学年が上がると、今度は下級生に教えたり、面倒をみたりして、クラブの中で集団生活のルールを学んでもらいたいと思います。

他のまちだと、民間経営のクラブがあるけど費用がかかるようで、でも岩見沢市の場合は公営で、基本の利用は無料です。延長保育はお金がかかりますが、2人目は半額なので助かっています。

もしクラブが無かったら、親が帰ってくるまで家で留守番もできるかもしれませんが、防犯面も考えると、仕事を断念するかもしれません。そういったことから、クラブは必要不可欠です。

他にも、地域のかかるたクラブの方が週1回、クラブにかかるたを教えに来ていて、上の子がそれで興味を持ち、かるたクラブに通うようにもなりました。地域でのこういった活動に感謝しています。

